

人と自然と文化にやさしい地域づくり

山口県教育

Education of the Yamaguchi prefecture

人間性豊かに生きる—「人間性」を求める—

5

令和4年 No.1323



■読書活動の推進に向けて

宇部市立図書館
周南市立遠石小学校

館長 山下 浩二
学校図書館司書 花崎 昌代

令和3年度 第74回山口県学校美術展 推奨作品
「かぼちゃのおうちにはかわいいねずみさんが住んでいるよ」
認定こども園 あおば幼稚園 年少(受賞時) 中村 涼乃

■育て 育つ PTA②

岩国市立川下中学校
山陽小野田市立厚陽小中学校

育友会長 百々 英樹

PTA会長 古豊浩太郎

■伝統文化を保存・継承する

赤崎神社楽踊保存会

会長 上田 久充

■豊かな環境を守る

大殿ホタルを守る会

会長 福永 俊明

■ご案内

一般財団法人 山口県教育会

〒753-0072 山口市大手町2-18 TEL 083-922-0383 FAX 083-922-5768

URL <http://www.ykyoikuk.or.jp> E-mail ykyoikuk@ruby.ocn.ne.jp

明治36年4月第1号 毎月1日発行 発行人 会長:倉増誠彦/編集長:西岡 尚



あなたの
アクションは…

山口県教育会がすすめる
「元気やまぐち」三つのアクション

◎あいさつ 返事で 明るいやまぐち

◎笑顔でつなぐ 安心やまぐち

◎ゴミ 落書きのない

美しいやまぐち



読書活動の推進に向けて

子どもの読書活動の推進について



宇都市立図書館
館長 山下 浩二

近年、人生100年時代の到来やAI（人工知能）の急速な進歩、グローバル化の進展など社会が急速に変化し、生涯を通じた学びや読書活動の充実がより重要となっています。

このため、宇都市では図書館を中心に全市的な取組として、いつでも、どこでも本に出会える「読書のまちづくり」を進めており、この取組の大きな柱の一つが概ね18歳までの子どもの読書活動の推進です。

子どもの読書活動の意義

子どもの読書活動は、ご承知のとおり、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かにするなど、人生をより深くする上でとても大切なものです。

特に、乳幼児期における絵本の読み聞かせは、豊かな感情や思いやりの心を育て、子どもの心の健全な成長に良い影響を与えるといわれています。

子どもの読書活動に対する基本的な考え方

子どもの活字離れ、読書離れが進んでいる現在、子どもの読書活動を推進することは難しい課題ですが、子どもが楽しんで自主的に本を読むためには、読書に親しむ機会の提供と読書環境の充実が重要であると考えています。

そのため、子どもに読書活動を提供し支援する家庭、学校、図書館などが、それぞれの立場で行う活動を充実させ、情報共有や協力体制も整えていくことが必要です。

図書館では引き続き、課題を整理しながら計画的、主体的に取り組むとともに、子どもの読書に関わる全ての主体を積極的に支援していきます。

○図書館の主な取組 ○図書資料等の充実

子どもの読書活動を推進するためには、まず子どもが興味を持ち、読みたい本を図書館が提供する必要があります。令和2年度末時点の児童図書冊数は、約9万5千冊で全体の約27%を占めており、今後も子どもや保護者の声を聴きながら、豊富で多様な図書の収集に努めています。

また、情報通信手段の普及や多様化が進んでいたため、令和2年12月には電子図書館を開設し、学校での活用も視野に入れ子ども向けの電子書籍の充実を図っています。

○主な行事の開催

定例的な行事としては、読み聞かせボランティア団体の協力を得て、「おはなしのじかん」「かみしばい」などを図書館で開催しています。



その他の団体の支援も得て、「図書館まつり」をにぎやかに開催しています。さらに、全市的に子ども読書活動を推進するため、図書館から離れた地域での活動も重要です。そのため、地域に出向いて読み聞かせを行う「キラメキ読書会」を実施しており、令和3年度は6か所で8回開催しました。

○学校等との連携

学校等との連携も積極的に行っています。

「学級文庫」は、移動図書館車「あおぞら号」などで市内全小学校に児童図書を持ち、クラス単位で貸出を行うシステムです。教室でミニ文庫として活用され、クラス全員で自由に読むことができます。

また、「図書館文庫」は、学校から依頼されたテーマに沿し、図書館職員が図書を選定し貸し出すシステムです。「絵本文庫」は、保育所・幼稚園等に対し、読み聞かせのための絵本（1セット20冊）を2セットまで1か月間貸し出すシステムです。

子ども読書活動推進に係る表彰

これまでの様々な取組が高く評価され、令和3年度に「子供の読書活動優秀図書館」として文部科学大臣から表彰を受けました。多くの方々のお蔭で受賞したのですが、とりわけ、日頃から図書館等で活動されているボランティア団体の皆様のお力なくして受賞はありませんでした。改めて厚くお礼を申し上げます。

結び

子どもが人生100年時代を豊かに生きる上で、読書習慣を身に着けることは、とても大切です。図書館では読書好きな子どもが一人でも増えるよう、これからも学校やボランティア団体等のご支援をいただきながら、しっかりと子どもの読書活動の推進に取り組んでいきます。





讀書推進活動

- | |
|----------------|
| 親子読書 |
| 誰もが参加する本の紹介 |
| 教科と繋がる並行読書 |
| 読み聞かせ |
| 朝の開館、朝読書 |
| チャレンジ目標と多読書の表彰 |
| 予約・リクエスト制度 |



繋がり広がる図書館活動

はじめに

遠石小学校では学校教育目標「夢と知恵とかかわりを追い求める学校」を踏まえ、学校運営の中に図書館教育を位置付けている。学校図書館教育目標として、①本に親しみ感性豊かな子どもを育てる読書活動②主体的・対話的で深い学びになるような学習活動③努力することを認め合い励まし合う人間関係を築く生徒指導の3点を軸に学校全体の学びに貢献できる図書館活動を行っている。長年の活動として、読み聞かせ団体「スマイル」による読み聞かせ、親子読書、育友会（PTA）による選書会を実施している。

令和元年度に図書館

周南市立遠石小学校

学校図書館司書 花崎昌代

の改造による

環境整備、蔵書管理のデジタル化を行い、児童育友会の寄贈によりエアコンも設置され

A classroom setting where several students are working on wooden bookshelves. One student in the foreground is focused on a task at a desk. In the background, other students are standing and talking. An inset circle provides a detailed view of the wooden shelves.

児童の図書委員会活動

子どもたちが主体的に活動する図書委員会活動は大きな原動力である。伝える繋がる図書委員会活動を目標に、本と人と知識とが繋がるようにと様々な活動を行っている。一人で楽しむ読書に加えて誰かと楽しむ読書は子どもたちに人気である。特に友どく（友だちと同じ本を読む）では、他の人の意見は自分と違うこと、それを認めるという本校で取り組んでいる人権教育にも通じる成果も自然と現れている。読書郵便では学年を越えた繋がり、お守り作りでは人と人との繋がりが生まれている。

おわりに

これらの活動によつて本好きな子どもたちが増え他人の意見を尊重する姿勢、高学年が低学年を思いやる場面が数多くみられるようになつた。

図書館はさまざまの方々に支えられ、連携しながら活動をしている。公共図書館、近隣の小中学校、地域・保護者の方々。これらの繋がりは図書館活動にはなくてはならないものである。

コロナ禍において人との距離を取る状況にある中、心はいつも寄り添い、子どもたちの「読みたい、知りたい」という気持ちに真摯に応え、一冊の本から繋がりを広げ、学校全体の学びの応援になるような図書館活動を行っていきたい。

育友会と家庭教育支援チームが連携して 「大人の学び」を保障！



岩国市立川下中学校

育友会長 百々英樹



この度、令和3年度「優良PTA文部科学大臣表彰」を受賞しました。受賞に至るまでの長年にわたる諸先輩方の学校・地域と連携した子どもたちへの支援、特にこの2年間においては、コロナ禍であっても地域と保護者が子育てや家庭教育に関する相談ができるよう、学校を拠点とした親同士のつながりを提供してきました。感謝申しあげます。

現在の山口県内の公立学校は、コミュニティ・スクールが100%設置され、中学校区からなる地域協育ネットの取組も年々活性化していると聞いております。本校には「学校・学校運営協議会」「地域・あつたかネット（地域協育ネット）」に加え、「家庭」に「チームほつとちゃん」という家庭教育支援チームが平成30年に設置され、「学校・地域・家庭」を支援する3本柱の組織が構成されています。育友会と3つの組織との連携の中でも、家庭への支援は今後ますます重要となってくると思われ、家庭教育支援チームと育友会の連携による取組の充実が必要であると考えています。また、学校は「知」の部、「徳」の部、「体」の部というように3つの部会に分かれたプロジェクト型校務分掌組織をとられており、育友会もこの3つの部から提案される取組に協力し、子どもの教育環境を整えるとともに、保護者も一緒に学びを深めることができます。三角州

学校紹介

さて、本校は、山口県東部、清流錦川に架かる錦帯橋で有名な岩国市南部の錦川によって形成された三角州（デルタ）に位置してい

育友会の取組

現在の山口県内の公立学校は、コミュニティ・スクールが100%設置され、中学校区からなる地域協育ネットの取組も年々活性化していると聞いております。本校には「学校・学校運営協議会」「地域・あつたかネット（地域協育ネット）」に加え、「家庭」に「チームほつとちゃん」という家庭教育支援チームが平成30年に設置され、「学校・地域・家庭」を支援する3本柱の組織が構成されています。育友会と3つの組織との連携の中でも、家庭への支援は今後ますます重要となってくると思われ、家庭教育支援チームと育友会の連携による取組の充実が必要であると考えています。また、学校は「知」の部、「徳」の部、「体」の部というように3つの部会に分かれたプロジェクト型校務分掌組織をとられており、育友会もこの3つの部から提案される取組に協力し、子どもの教育環境を整えるとともに、保護者も一緒に学びを深めることができます。三角州

は、ご存じのように米軍岩国基地が広大な面積を占めており、本校の校区内に基地がある国際色豊かな地域です。私たち川下中学校育友会は、このように多様な文化が共存する地域で、子どもたちそして保護者が魅力的な生活を送られるように育友会活動に取り組んでいます。

今後に向けて

私が育友会会長に就いてからこの2年間は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、学校だけでなく世界が一変しました。当初は、未知のウイルスであるため、様々な活動が制限されました。しかし、本校では、コロナ禍だからこそ子どもたちの学びを止めない、そして保護者の学びも止めない活動を実践してきました。



今後とも、学校・地域・家庭を支援する3つの組織と育友会が強力に連携することができる体制を有した本校の強みを生かし、育友会として全会員が協力し、これから地域を担つていく子どもたちの育成に取り組んでまいります。

家庭を中心とした地域と連携して 子供の育成に努めるPTA活動



山陽小野田市立厚陽小中学校

PTA会長 古 豊 浩太郎

令和3年度「優良PTA文部科学大臣表彰」を受賞しました。本校PTA発足以来諸先輩方による長年の活動と実績、そして地域の皆様の多大なる協力の賜物と感謝を申し上げます。

学校紹介

厚陽小・中学校の校区は山陽小野田市の南西部に位置し、美祢市から流れる厚狭川の河口や、そこから広がる周防灘を眺める夕日スポットがあります。周りに田畠が広がるのどかな場所で道路を挟んで目の前にある厚陽保育園とは年中行事を通じた交流もあります。厚陽小学校は今年で創立147周年の歴史ある学校で、校区内にはたくさんの卒業生の方が居られ、暖かく見守つて下さっています。

本校は平成24年度から小学校と中学校が同じ敷地にある併設型小中連携校となりました。その後、平成29年度より併設型小中一貫校としてリストアートするにあたり、小学校・中学校それぞれで活動していたPTAを一本化することになりました。地域、そして小中学校のPTAが一体となって活動できる環境づくり、厚陽PTA家庭教育支援チームの発足などの活動を評価していただき受賞をすることができました。

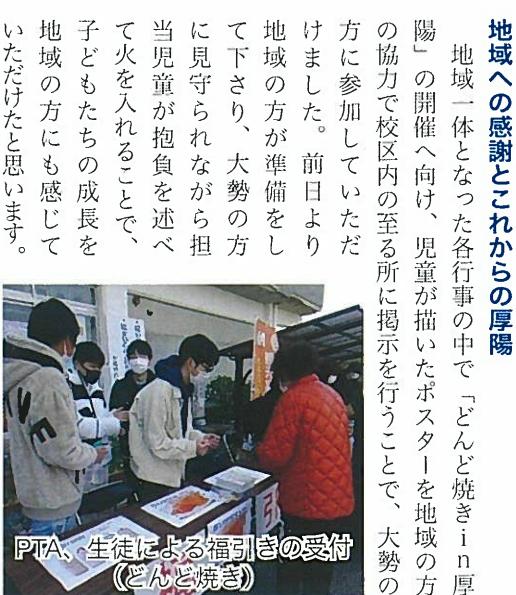
厚陽PTA家庭教育支援チームの活動

今年度の児童生徒数は88名で小・中学校ともに1学年1クラスの小規模校です。そんな、よくある小規模校で、令和2年度からPTAと連携した家庭教育支援



のモデル校を受け、PTAが主体となり活動することを強みに「厚陽PTA家庭教育支援チーム」として活動を開始しました。活動を開始するにあたり既に山陽小野田市の各校区で家庭教育支援チームとして活動している主任児童委員・民生委員の方に参加していました。だき、保護者同士の縦と横の繋がりを目的に「子育て応援ひろば」、「意見交換会」を計画しました。全保護者が参加する2学期の保護者懇談会に併せて「子育て応援ひろば」を開催しました。懇談会の合間に会場である図書室を自由に入りしながら、テーマに沿った意見を付箋で掲示板に張り付けることで生きた情報交換を行うことができました。また、気軽に参加しながら話が出来るように時期に併せてクリスマスツリー作りを企画しました。コロナ禍で色々な行事が中止になるなか、「他の保護者と久しぶりに話ができる」と皆さんに大変喜んでいただけたことが一番の成果でした。今年度も同時期に開催し保護者同士の交流の場として定着しつつあります。

次に就学前からの支援体制づくりを目的に、新入生の保護者と先輩保護者との学校生活や家でのかかわり方などの情報交換ができる場として、3学期の小学校仮入学と中学校進路説明会に併せて「意見交換会」を開催しました。新しい生活が始まるにあたり、朝の家庭での過ごし方を心配している意見が出る中、校長先生、教頭先生にも出席して



地域への感謝とこれからの厚陽

地域一体となつた各行事の中では「どんど焼きin厚陽」の開催へ向け、児童が描いたポスターを地域の方の協力で校区内の至る所に掲示を行うことで、大勢の方に参加していただきました。前日より地域の方が準備をして下さり、大勢の方に見守られながら当児童が抱負を述べて火を入れることで、子どもたちの成長を地域の方にも感じていただけたと思います。

者との学校生活や家でのかかわり方などの情報交換ができる場として、3学期の小学校仮入学と中学校進路説明会に併せて「意見交換会」を開催しました。新しい生活が始まるにあたり、朝の家庭での過ごし方を心配している意見が出る中、校長先生、教頭先生にも出席して

いたただくことで、校則や授業についてなど、学校に対する質問をその場で解決することができました。この時に出た質問は同様に悩んでいる保護者の方も多いと思いますのでQ&A集としてまとめ、今後の活動に活かしていきたいと思います。

通年の活動として、地域の方、保護者に託児用のおもちゃと制服の寄付を募っています。子ども会が主催する救命救急講習会の間に家庭教育支援チームが託児を担当するにあたりおもちゃの寄付が大変助かりました。制服は意見交換会の時に希望者へお渡しできる組みができました。

教頭先生にも出席して

伝統文化を保存・継承する



虎の子渡し

昭和43年に県の無形文化財に指定され、昭和47年8月5日には、文化庁より「記録作成等の借置を講ずべき無形文化財」に選定される。昭和51年3月16日に山口県より無形民俗文化財に指定された。

由来と沿革

慶長元年（1596）北長門地方一帯に牛馬の疫病が大流行し、深川村（現長門市）でも380頭余りの牛馬が病死したので、牛

指定

「赤崎神社楽踊保存会」は、長年にわたり県指定無形民俗文化財「赤崎神社楽踊」の保存と継承に尽力し、地域文化の振興に貢献されたことが高く評価され、令和3年度地域文化功労者表彰（文部科学大臣表彰）を受賞されました。そこで、今回、赤崎神社楽踊保存会の活動を紹介していただきます。



赤崎神社社殿

赤崎神社樂踊

あかさきじんじやがくおどり

赤崎神社樂踊保存会
会長 上田久充

馬の守護神である赤崎神社に疫病が治まるように祈願した。その祈願成就の神の恩に感謝するために踊りを奉納したのが始まりである。

江戸時代の書物『防長風土注進案』にも祭礼に関する記載を見る事ができ、約420年間に亘り毎年8月10日（現在は9月10日）の赤崎神社の祭礼の日に奉納が続けられている。

奉納にあたり、旧深川村管内の小村で構成する組が

作られ、樂踊（5組）、南条踊（1組）、式三番叟（1組）で七楽（しちがく）と呼ばれていた（図）。

現在は「月の前」の伶樂、「虎の子渡し」「式三番叟」「湯本南条踊」

の四楽が奉納されている。平成28年（2016）にはダイドードリンコ「日本のまつり」を取り上げられ、奉納の様子は全国放送で放映された。

図：「七楽」（①～⑤は樂踊）

七楽の名称	担当地区	備考
①月の前の伶樂	江良・藤中	
②虎の子渡し	上川西・下川西 上の原・開作	
③獅子の洞入	河原・大河内 小河内・殿台	昭和38年廃止
④華表（とりいの潜り）	上郷・下郷	昭和36年廃止
⑤斗鶴	板持	明治13年廃止
式三番叟	正明市全区	
湯本南条踊	湯本全区	



奉納前に神前に祭文を奉る

当家1名、法螺貝1名、警固4名、胴取2名、团扇遣い2名、杖遣い2名（子ども）、鉦打10名（子ども）。胴取は、踊りの主役で、宝冠という美しい造花の大花を戴き、首から腰鼓を吊るして撥を持ち踊る。团扇遣いは、この踊りの指導的な役で、大团扇を持ち踊る。

赤崎神社樂棧敷（重要有形民俗文化財、昭和38年国指定）である。国内で2か所しか指定を受けていない大変貴重な棧敷である。赤崎山の北東斜面中腹に鎮座する赤崎神社の西南に半すり鉢状の山の谷を利用して、その底を踊庭（おどりにわ）とし、斜面を観覧席として各階段を石垣で築きあげた。また、芝居小屋が建つていて芝居小屋が建つていて芝居小屋は、昭和37年の國体相撲会場の整備のため取り壊され、現在まで復元はされていない。



月の前伶樂

蛍の余光！和歌の心を照らしてくれた！



大殿ボタルを守る会
会長 福永俊明

「山口ゲンジボタル発生地」は、徳川家康の生誕地「岡崎ゲンジボタル発生地」（愛知県岡崎市）と共に昭和10年12月24日、国の天然記念物に指定されました。

現存するボタルに関する全国11か所の天然記念物指定地の中で最も古い指定地として、両者肩を並べて日々、最長記録更新中です。

橋本正之知事時代、ボタルを愛でつつ暮らす地域住民の心情を汲み取り、「一の坂川」上流部の河川改修工事に先手を打つて県農業試験場（現県農業技術総合センター）がゲンジボタル人工飼育に乗り出したのは昭和41年。工事完了後、「もう良いだろう」と幼虫放流を止めたのは昭和57年。

日数のみ ふるのわさ田の 五月雨に

ほさぬ袖にも とる早苗かな

二十代勅撰集『新後拾遺和歌集』に入集した大内義

弘公（国宝瑠璃光寺五重塔）建立時は香積寺五重塔に祀られている大内氏二十四代当主の歌です。奈良の石上神宮付近には布留山や布留川があり、その付近がこの国の建国にも絡む布留の地。義弘公はその意味深

な布留の地を詠んだのです。五月雨が降り続き、農民たちは作業着の袖を干す暇もなく田植えに精を出していきます。ここで終わればただの風景画ですが、当時の義弘公の状況を重ねることが出来るようになつて来ると、



大殿小3・4年生による幼虫約13,000匹の放流

年、同校の呼びかけで地域の7団体の代表が集まつて「大殿ボタルを守る会」が結成され、同センター内に事務局を置きました。以来、親ボタル捕獲、採卵、孵化、飼育、川清掃、幼虫放流など地道な活動が続いているまです。今では、大殿地区町内連合会、おおどのコミュニティ協議会の代表等も会員に加わり、毎年約1万3千匹の幼虫を「一の坂川」に放流中です。

地域ぐるみの蛍との長い付き合いの中で、埋もれいた大内文化の一端が理解できるようになり、「一の坂川」沿いに大内盛見公の和歌「蛍」と、大内政弘公の和歌「潤底蛍」と、二つの歌碑が建ちました。前者は「大殿春秋会」、後者は当会の建立です。その延長線上で、勅撰集の歌や御製の意味が理解できるようになつてきました。まるで、ボタルが照らし出してくれた感じです。その一端をご報告します。

日数のみ ふるのわさ田の 五月雨に

ほさぬ袖にも とる早苗かな

二十代勅撰集『新後拾遺和歌集』に入集した大内義

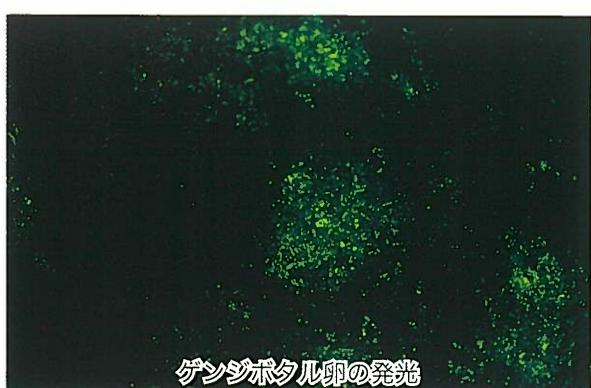
弘公（国宝瑠璃光寺五重塔）建立時は香積寺五重塔に祀られている大内氏二十四代当主の歌です。奈良の石上神宮付近には布留山や布留川があり、その付近がこの国の建国にも絡む布留の地。義弘公はその意味深

な布留の地を詠んだのです。五月雨が降り続き、農民たちは作業着の袖を干す暇もなく田植えに精を出していきます。ここで終わればただの風景画ですが、当時の義弘公の状況を重ねることが出来るようになつて来ると、

一変します。義弘公は、北朝方・今川了俊の九州平定戦の主力として初陣を果たし、『応永記』によれば「二十年間に合戦二十八回」。農民以上に過酷な日々を耐え抜き、北朝優位体制が決定的となつた頃、足利義満将軍の使いとして吉野に参上しました。水戸の『大日本史』は「義弘吉野に詣ず 講和を議し 議成る 神器京に還り 皇統帰一す」（原文・漢文）と、義弘公の働きを高く評価しています。もう一首…。

みどりそふ 大内山の 松の葉は

八百万代の 春の数かも



ゲンジボタル卵の系統

たつたものを感じずにはいられません。香山墓地に眠る毛利敬親公墓前の勅撰銅碑と二つ並んでふるさとの宝物となるのではないでしょうか。

第1回授業力アップセミナー (旧 青年教師の集い)

- 1 趣 旨** 授業力の向上に強い思いをもつ小・中学校の青年教師が集い、授業実践及び授業構想を検討し合うことをとおして、教師としての力量を高める。
- 2 主 催** (一財) 山口県教育会
- 3 期 日** 令和4年8月9日(火)・10日(水) 1泊2日
- 4 会 場** パルトピアやまぐち
- 5 研究教科** 小・中学校国語科
テーマ：国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育てる国語科指導
－豊かな言語活動を通して－
- 6 参 加 者** 小学校教諭6人程度 中学校教諭6人程度 計12人程度
- 7 参加経費** 交通費、宿泊費等の必要経費はすべて主催者が負担する。
- 8 研修日程**
- | 時刻 | 研修内容 (8月9日) | 会 場 | 時刻 | 研修内容 (8月10日) | 会 場 |
|-------|------------------------------|-----------------------|-------|----------------------------------|-----------------------|
| 9:30 | 開会行事 | パルトピア
やまぐち
中ホール | 9:00 | 【小学校と中学校の2部会に分かれる】
模擬授業の指導案作成 | パルトピア
やまぐち
中ホール |
| 10:00 | 【小・中混合の2グループに分かれる】
実践例の発表 | | 10:30 | 模擬授業 | |
| 12:00 | 昼食・休憩 | | 12:00 | 昼食・休憩 | |
| 13:00 | 実践例の発表(午前の続き) | | 13:00 | 模擬授業(午前の続き) | |
| 15:00 | 発表についての研究協議 | | 14:45 | 研究協議・指導助言 | |
| 16:15 | 指導助言 | | 15:30 | 全体会・閉会行事 | |
| 18:30 | 夕食・意見交換会 | | | | |
- 9 参加申込** A4判用紙に、①氏名 ②性別 ③教職経験年数 ④所属学校名 ⑤応募の目的を記入して、(一財) 山口県教育会へFAX送信 (FAX083-922-5768) する。
 * 応募用紙の様式は、(一財) 山口県教育会のホームページからダウンロード可能。
 * 申込多数の場合は、主催者が「⑤応募の目的」を比較検討して決定する。
- 10 申込締切** 令和4年6月10日(金)
- 11 問合先** (一財) 山口県教育会 山口市大手町2-18 (TEL)083-922-0383 (FAX)083-922-5768

第73回日本連合教育会研究大会 東京大会

- 1 大会主題** Society5.0 (超スマート社会) を心豊かで主体的に生き抜く日本人の育成
- 2 主 催** 日本連合教育会 東京都教育会
- 3 期 日** 令和4年8月18日(木)～19日(金)
- 4 会 場** なかのZERO西館小ホール [〒164-0001 中野区中野2-9-7] 他
- 5 大会日程**
- | 9:10 | 9:50 | 10:20 | 11:50 | 12:15 | 13:30 | 16:30 |
|----------|------|-------|-------|---------|-------|-------|
| 8月19日(金) | 開会式 | 全体会 | 記念講演 | アトラクション | 移動昼食 | 分科会 |
- 記念講演 演題 「ウェルビーイングを実現する教育の在り方」
 講師 鈴木 寛 様 (東京大学教授 元文部科学副大臣 前文部科学大臣補佐官)
 アトラクション 中野区立小学校・中学校、東京都立高等学校のプラスバンド演奏
 分科会 ①教育課程 ②学習指導(1) ③学習指導(2) ④情報教育 ⑤道徳教育 ⑥幼児教育
 ⑦特別支援教育 ⑧人権教育 ⑨健康・安全教育 ⑩学校・家庭・地域の連携(シンポジウム形式)
- 6 参加経費** 自宅から最寄り新幹線駅までの往復交通費と飲食費を除き、その他の交通費、参加費、宿泊費等の必要経費は(一財)山口県教育会が負担する。
 *出発地等詳細は未定
- 7 参加募集** 20人(予定)
- 8 参加申込** (一財) 山口県教育会へ、電話 (TEL 083-922-0383) で参加申込を行う。
 *申込者多数の場合は、初めて参加される者を優先して参加者を決定する。
- 9 申込締切** 令和4年5月31日(金)
- 10 問合先** (一財) 山口県教育会 山口市大手町2-18 (TEL)083-922-0383 (FAX)083-922-5768

終身会員の紹介

野村 義徳 様 (吉敷)

久保 仁 様 (美祢)